

蚕博士になろう

名森小学校「養蚕を通して伝統産業にふれる」

名森小学校4年生の総合的な学習の時間(なぎはや)のテーマは、「蚕博士になろう」です。

名森地区では、かつて養蚕がさかんに行われていました。その養蚕にふれ、先人の知恵と努力を実感することが学習のねらいです。また、自然の偉大さや命の大切さについても学びます。

6月の約1か月間、1,200頭ほどの蚕を育てました。脱皮をするとき以外、カサカサと音をたてながら桑の葉を食べ続けて成長する蚕の世話をしました。日に日に大きくなっていく姿に命を感じ、口から糸を吐きながら白く美しい楕円形の繭をつくる姿に生き物の神秘さや偉大さを感じました。



▲破れないように気をつけて



▲協力して糸を巻いていきます

10月12日(水)、13日(木)には、「真綿引き」と「糸引き」の体験をしました。「真綿引き」は、重曹じゅうそうを入れたお湯で煮てやわらかくした繭を、かけ枠にかけて1枚の布にする作業です。仲間と息を合わせて繭を広げました。「糸引き」は、お湯で煮た繭から糸の端を見付けて、やりながら糸かけ車に巻く作業です。糸を引き出す役、糸をよる役、糸を巻き付ける役を分担して、協力して作業をしました。糸の端を見付けるのが大変でした。地域講師の先生から、繭は約1,500メートルの一本の糸で作られていることを教えてもらい、繭の糸を切らすことなくほどこいていく昔の人の技は、まさに職人技であると知りました。

11月17日(木)に最後に体験したのは、絹製品である「組紐くみひもづくり」です。蚕の命を感じながら、職人技に挑戦しました。

家族の絆を詩にしました

11月20日(日)、第35回安八町社会福祉大会並びに第26回安八町青少年育成大会が開催されました。その中で、子どもたちが家族への感謝の気持ちを詩で表現した『家族の一行詩』の優秀作品が発表されました。

審査結果は応募総数1,014点
中、安八町青少年育成町民会議会長賞1点、教育長賞1点、入選15点でした。(敬称略)

◆安八町青少年育成町民会議会長賞
「ママの弁当」

お母さんが作るお弁当には
必ずきらいな物が一つ
お母さんの想いに
ごちそうさま

登龍中学校1年 棚橋 美未

◆教育長賞
「まほつの言葉」

『大丈夫』これが我が家の
まほつの言葉
なんだか元気が
わいてくる

名森小学校5年 大橋 瑠依

11月例会成績

優勝	安八棋友会(敬称略)
二位	岡田 広行 六段
三位	中名 泰晴 四段
	小池 清司 五段

『家庭の日』啓発図画・ポスターで入賞

11月6日(日)、県青少年健全育成大会が行われました。そこで『家庭の日』啓発図画・ポスターの表彰も行われ、牧小学校2年生の林 明史あきふみさんの作品が『小学生の部(図画)』で県最優秀賞に選ばれました。

また、町の青少年育成大会の青年の部でも表彰されました。



◎12月の展示
彫り絵の会 【安八温泉ギャラリー】
きり絵クラブ 【中央公民館】

文化協会からのお知らせ